MoveAndResizeWindowクイックスタートガイド

1 インストール方法

MoveAndResizeWindow[VLL].zipを展開し、任意のフォルダに格納してください。

2 フォルダ構造

展開したフォルダ「MoveAndResizeWindow」の内容は、次のとおりです。

¥MoveAndResizeWindow	内容
Docs	ドキュメント類格納フォルダ
Icons	アイコンファイル格納フォルダ
Langs	言語別設定ファイル格納フォルダ
Srcs	ソースプログラム格納フォルダ
Subs	サブルーチン格納フォルダ（詳細は「」を参照）
Tools	ツール格納フォルダ（詳細は「」）
MoveAndResizeWindow.conf	実行に必要なフォルダやファイルのPathを格納。
MoveAndResizeWindow.exe	システム実行ファイルです。
ReadMe_ja.txt	ReadMeファイル

［目次へ］

3 実行環境と実行方法

MicroSoft Windows10／11上において、システム実行ファイルを起動するだけで利用できます。

4 システムの起動／停止／確認／再開／終了方法

規定（※1）では、停止状態かつ無音で起動します。

機能	操作方法	通知音（※4）
起動（※2）	スクリプト／exeファイルを起動	短音（低）2回＋長音（高）1回（『ポポピー』）
停止（※3）	Win＋Escキーを素早く2回押下（再開と同じ）	短音（高）2回＋短音（低）1回（『ピピポ』）
再開	Win＋Escキーを素早く2回押下（停止と同じ）	短音（低）1回＋短音（高）2回（『ポピピ』）
確認	Win＋Escキーを短く1回押下	稼働中…短音（高）2回（『ピピ』）／停止中…短音（低）1回（『ポ』）
終了	Win＋Escキーを長押し	短音（高）2回＋長音（低）1回（『ピピポー』）

※1）「既定」…初期値（設定ファイルがないときの値）であり、設定ファイルにおいて変更可能です。
※2）直接「MoveAndResizeWindow.exe」を起動するか、ショートカットを作成し、「スタートアップ」フォルダに保存するとWindowsの起動時に自動起動します。
※3）システムを「停止」状態にするとWinキーはWindows本来の動作をします。
※4）通知音を「On」（規定では「Off」）にしたときに出力される規定の音程のBeep音です。

［目次へ］

Beta

5 システムの機能

このシステムには、以下の機能があります。

5.1 ウィンドウ操作機能

ウィンドウを水平(x)軸と垂直(y)軸をそれぞれ三つ、都合9個の区画に区切り(※1)、Windowsキー(※2)とともにその区画でのマウス操作によってウィンドウの位置、サイズの変更操作等を行うことができます。

※1) 区切った区画それぞれをx軸とy軸で表し、それを「区画座標」と言います。例えば、上左端の区画座標は「11」、上右端のそれは「区画座標31」となります。
※2) 以下、「Winキー」と言います。なお、Winキーの代わりにマウスの「拡張ボタン1 (XButton1、以下、「戻るボタン」と言います)を使うこともできます。

5.2 サブルーチン割り当て、並びに実行機能

公開している内部サブルーチンやサブルーチンフォルダに格納されている実行ファイル(拡張子が「exe」など)やショートカットファイルなど(以下、「サブルーチン等」と言います)をWinキー+マウス操作、あるいはショートカットキーに割り当てて実行することができます。

この機能の詳細に関しては、別ドキュメント「MoveAndResizeWindowユーザーズマニュアル」を参照してください。

[目次へ]

6 操作方法

それぞれの区画に対してWinキー+マウスボタンの操作で以下に示すウィンドウの操作を行うことができます。ウィンドウ操作の実行単位は、以下で述べるマウスボタン左右(「L」/「R」)、区画座標、クリックパターンの組み合わせになります。

なお、お手持ちのマウスに拡張ボタン1(X1ボタン、一般に言う「戻るボタン」)があれば、Winキーの代わりに戻るボタン+マウスボタンで操作することができます。

6.1 ウィンドウ内(※)のクリック対象範囲

操作の対象となるウィンドウ(下図、太枠内)を横x(1~3)、縦y (1~3)をそれぞれ三つ(都合、9領域)に分割し、個々の領域(以下、「区画」と言います)を「x/y」で表します。

※) マルチモニタ環境において、一つのウィンドウが複数のモニタに跨っている場合は、そのウィンドウにはそれぞれのモニタごとに9個の区画が存在します。

y \ x	1	2	3
1	1/1	2/1	3/1
2	1/2	2/2	3/2
3	1/3	2/3	3/3

[目次へ]

6.2 クリックパターン

マウスでの短押しを「・」、長押しを「－」で表したときのクリックパターン(一部)を以下に示します。ここで、クリックは、マウスボタンを押して一定時間(規定値は0.2秒)以内に離したときを「短押し(「S」とも表記)」と言い、それ以上を「長押し(「L」とも表記)」と言います。

No.	1	2	3	4	クリックパターン記号
1	－				L___
2	・				S___
3	・	－			SL__
4	・	・			SS__
5	・	－	－		SLL_
6	・	－	・		SLS_
7	・	・	－		SSL_
8	・	・	・		SSS_
⋮					
15	・	・	・	－	SSSL
16	・	・	・	・	SSSS

注1) クリックパターンを固定長(4桁)で表現するために4桁未満の場合、末尾を「_」(アンダースコア)で埋めています。
注2) 長押し「L(「－」)」はドラッグに使用されるので、先頭が「L」の後ろに続くパターンはありません。

[目次へ]

6.3 サブルーチン割り当て方法

6.3.1 左右のマウスボタン、区画、クリックパターン単位での割り当て

「左右のマウスボタン」+「_」+「区画座標」+「_」+「クリックパターン記号」(固定長9桁)ごとに、サブルーチン(機能)を割り当てることができます。

以下の例では、サブルーチン割り当てパターン(以下、「割り当てパターン」と言います)は、「L_11_SSSL」となります。これは、「マウスの左(「L」)ボタンを使って、マウスを区画座標「11」の位置に移動し、クリックパターン「SSSL」の操作をする」ことを表します。

項目	左右区分(※)	_	xy(区画座標)	_	クリックパターン記号(※)
例	L	_	11	_	SSSL

※) 左右区分・・・左:「L」/右:「R」

6.3.2 ボタン、クリックパターン単位での割り当て

項目	ボタン種別	_	クリックパターン記号(※)
例	MB	_	SSSL

※) ボタン種別

[目次へ]

6.4 マウスボタンのクリックのしかた

ボタンを押下した時間が一定(既定値は0.2秒)未満の場合を「短押し(記号「S」)」、それ以上の場合を「長押し(記号「L」)」とします。

マウスボタンの連続クリック中にマウスが動いても区画座標(x/y)をはみ出さない限り(正確に言うと、最後にボタンを離した位置の区画座標を基に)動作します。長押し(「L」)で終わる操作(SL「・ー」、SSL「・・ー」など)も、連続クリックと同様に途中でマウスが動いても動作します。なお、処理は最後のボタンを離したときに開始されます(最後が長押しの場合は「一定時間」を超えていればいくら長くても構いません)。

7 基本機能

割り当てパターンごとの機能を次の表で示します。Winキー(またはX1ボタン)を押したまま、下図に示すウィンドウの位置でマウスを操作することによってそれぞれの機能を実行することができます。

なお、これらの機能においては、割り当てパターンを変更することはできません。

左 L_xy_S___ [・] モニタ内瞬間移動

x / y	1	2	3
1	左 上↖	上↑	上↗ 右
2	左←	中央	→右
3	左 ↙下	↓下	↘ 右 下

右 R_xy_S___ [・] モニタ内瞬間拡大

x / y	1	2	3
1	左 上↖	上↑	上↗ 右
2	左←	全方向	→右
3	左 ↙下	↓下	↘ 右 下

左 L_xy_L___ [-] ドラッグ移動

x / y	1	2	3
1	全方向	上↑ 下↓	全方向
2	←左右→	全方向	←左右→
3	全方向	上↑ 下↓	全方向

右 R_xy_L___ [-] ドラッグ拡縮

x / y	1	2	3
1	左 上↖	上↑ 下↓	上↗ 右
2	←左右→	全方向	←左右→
3	左 ↙下	上↑ 下↓	↘ 右 下

[目次へ]

8 拡張機能

システムで公開しているサブルーチン(以下、「公開内部サブルーチン」と言います)やサブルーチンフォルダに格納されている実行ファイル、ショートカット等(以下、「外部サブルーチン」と言います)を割り当てて起動することができます。

この機能の詳細に関しては、別ドキュメント「MoveAndResizeWindowユーザーズマニュアル」を参照してください。

[目次へ]

8.1 公開内部サブルーチン

公開内部サブルーチンには、システムであらかじめ割り当てているもの(以下、「初期割り当てサブルーチン」と言います)と未割り当てのサブルーチンがあります。

8.1.1 初期割り当て済みサブルーチン

左 L_xy_SS__ [・・]

y＼x	1	2	3
1	前モニタ 左上端へ	隠れウィンドウ 一覧表示(※)	次モニタ 左上端へ
2	前モニタ 左上端へ (ポインタも)	全ウィンドウ 一覧表示(※)	次モニタ 左上端へ (ポインタも)
3	同一プロセスウィンドウ 一覧表示(※)	同一実行ファイル ウィンドウ一覧表示(※)	同一クラスウィンドウ 一覧表示(※)

右 R_xy_SS__[・・]

y＼x	1	2	3
1	最下層へ	重複ウィンドウ 一覧表示	最小化
2	常に最前面 (トグル)	全ウィンドウ最小化 (自分を除く)	最小化した最上層 ウィンドウを元に戻す
3	同一プロセス ウィンドウ最小化 (自分を除く)	同一実行ファイル ウィンドウ最小化 (自分を除く)	同一クラス ウィンドウ最小化 (自分を除く)

左 L_xy_SL__[・-]

y＼x	1	2	3
1	前モニタ 同位置へ	隠れウィンドウ 表示	次モニタ 同位置へ
2	前モニタ 同位置へ (ポインタも)	全ウィンドウ表示	次モニタ 同位置へ (ポインタも)
3	同一プロセス ウィンドウ表示	同一実行ファイル ウィンドウ表示	同一クラス ウィンドウ表示

右 R_xy_SL__[・-]

y＼x	1	2	3
1	Win+Tab (タスクビュー)	重複ウィンドウ 表示	最大化/元に戻す
2	Ctrl+Alt+Tab (タスクスイッチャ)	全ウィンドウ最小化	最小化した最下層 ウィンドウを元に戻す
3	同一プロセス ウィンドウ最小化	同一実行ファイル ウィンドウ最小化	同一クラス ウィンドウ最小化

左 L_xy_SSS_[・・・]

y＼x	1	2	3
1	ポインタ下ウィンドウ 一覧表示(※)		
2			
3			

右 R_xy_SSS_[・・・]

y＼x	1	2	3
1	最下層へ (タイマー付き)	最小化ウィンドウ 一覧表示	非最小化ウィンドウ 一覧表示
2	ポインタ下ウィンドウ 一覧表示(※) (タイマー付き)	最小化ウィンドウ 表示	非最小化ウィンドウ 表示
3	(未割り当て)	(未割り当て)	閉じる

左 L_xy_SSSS[・・・・]

y＼x	1	2	3
1	(未割り当て)		
2			
3			

右 R_xy_SSSS_[・・・・]

y＼x	1	2	3
1	(未割り当て)		
2			
3			

注1) これらの割り当て済みサブルーチンは、設定ファイルによって上書き変更することができます。

注2) 長押し(「L」で終わる操作(SL「・ー」、SSL「・・ー」など)も、連続クリックと同様に途中でマウスが動いても動作します。なお、処理は最後の(長押し)ボタンを離したときに開始されます。つまり、長押しは一定時間を超えていればいくら長くても構いません。

[目次へ]